

再生紙のトイレトペーパーは減っている？！

最近バージンパルプのトイレトペーパーが、スーパーやドラッグストアの衛生紙の棚の大半を占め、再生紙は隅に追いやられているように見えます。そのせいか、古紙ネットへも再生紙のトイレトペーパーのシェアを教えてほしいという問い合わせが度々来ていました。しかし、ここ数年はデータが入手できず、製紙連合会へ問い合わせてもわからないとの回答で、おおよその状況もつかめずにいました。

幸いなことに、最近ようやく詳しい方から教えてもらうことができましたのでお知らせします。

右図のように、大手製紙メーカーはシェアをのぼし、中小製紙メーカーは減らしています。

家庭紙の場合、大手はバージンパルプ生産、中小は再生紙生産とほぼすみ分けしていますが、大手でも中小の再生紙工場を吸収するなどして再生紙を生産している場合があります。

トイレトペーパー出荷状況 (速報につき実績とは多少異なります)

年	単位(万トン)	大手	%	中小	%	合計
2005	生産量	30.5	31	68.3	69	99.0
	出荷量	31.6	32	68.9	69	100.4
2006	生産量	33.5	32	69.0	67	103.5
	出荷量	32.9	32	69.4	68	102.3
2007	生産量	36.1	35	68.4	65	104.5
	出荷量	36.0	34	68.8	66	104.8

(日本家庭紙工業会調べ)

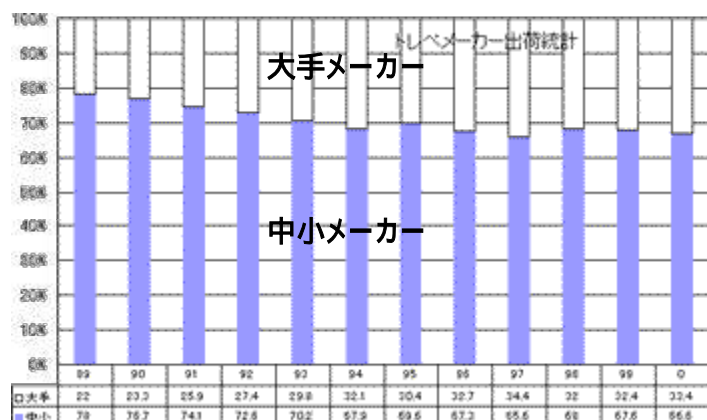
ますし、輸入トイレトペーパーの再生紙とバージンパルプの比率もわかりませんから、正確な再生紙比率はつかめませんが、やはり再生紙のトイレトペーパーは減少傾向にあるとみて間違いのないようです。しかし、小売店の棚で見ると再生紙が善戦しているのは、事業所や公共トイレが安価な再生紙を採用しているケースが多いためだと思われます。

明らかに再生紙の方が安いにも関わらず、なぜ家庭用がシェアを減らしているのかはわかりません。ソフトでおしゃれなペーパーが好まれる風潮にあって、再生紙は固いなどと誤解している消費者が多いことや、シャワートイレ用と明記されているものにバージンパルプの二枚重ね(以下、W)が多いことなどが影響しているかもしれません。

また、価格の高いバージンパルプを少しでも安く見せるためと、特売品にされやすい

再生紙をさらに安く売るためだと思われるが、ペーパーの長さはどんどん短くなっています。以前は、シングル(以下、S)は65m巻き、Wは32.5m巻きが主流でしたが、いつのまにか主流はS60m・W30mに置き換わりました。その他、S50m・W25mも多く、「シャワートイレ用」としてWで23mや21.5m、三枚重ねで22mや20mなど従来品の6~7割程度の長さしかないものが出回っています。

トレメーカー【大手・中小】出荷量シェアの推移



<栗岡理子>